

沖縄戦下の子どもたち

令和8年7月18日(土)～8月30日(日)

休館日:月曜日(7月20日は開館)・第3火曜日・7月22日



1943(昭和18)年卒業生 校門前にて(一中戦没学徒資料室/提供)



開催場所

川崎市平和館 平和の広場

川崎市中原区木月住吉町33-1

電話:044-433-0171

Fax:044-433-0232

【交通】JR横須賀線・南武線、東急東横線・目黒線「武蔵小杉駅」、東急東横線・目黒線「元住吉駅」からそれぞれ徒歩約10分

※駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください

【主催】川崎市

【協力】沖縄県・一中戦没学徒資料館・南風原文化センター・対馬丸記念館・沖縄県公文書館・ひめゆり平和祈念資料館・読谷村史編集室・沖縄県平和祈念資料館・名護高等学校・せたがや未来の平和館(順不同)

【問合せ】川崎市平和館 川崎市中原区木月住吉町33-1 電話:044-433-0171

「沖縄戦下の子どもたち」について

沖縄諸島は、戦争末期、現在の日本の領土で唯一、一般の住民が大規模に巻き込まれた地上戦が起きた場所であり、軍人だけでなく、多くの住民の尊い命が失われ、一般県民約9万4千人（推計）が犠牲となりました。

沖縄戦では、子どもたちが、軍人や看護要員として動員されて亡くなる、疎開の途中で乗っていた船が撃沈され亡くなる、敗走する軍と避難する住民が入り混じった戦場で巻き添えになる、飢えやマラリアに苦しみ亡くなる、避難の邪魔になるから、泣き声で敵に見つかるからと殺されるなど、数多く犠牲になりました。

川崎市平和館は「沖縄戦下の子どもたち」と題し、戦下の子どもたちにスポットを当てた特別展示を開催します。沖縄戦の展示を通じ、ご来場の皆様とともに、戦禍のない「世界報（ゆがふ）」（平和な世界を意味する沖縄の言葉）を考えたいと思います。

関連イベント上映会

長編ドキュメンタリー映画

ひめゆり



太平洋戦争末期の沖縄戦で、従軍看護活動にあたった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の女学生ら、通称「ひめゆり学徒隊」の生存者達の証言映像をメインに構成された、ノンフィクションの長編ドキュメンタリー作品

製作・配給：プロダクション・エイシア

共同制作：財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会

監督：柴田昌平

2時間10分

令和8年8月9日(日)13:30~15:40

川崎市平和館 平和の広場

参加費無料・要申込

7月15日9時より受付先着40名

お申込みはこちらの二次元コードから⇒



ミニトーク「沖縄戦と子どもたち」

ドキュメンタリー映画『ひめゆり』上映後には、「せたがや未来の平和館」専門員のファン・ユーシャンさんを迎え、『沖縄戦と子どもたち』をテーマにミニトークを開催します。川崎市平和館とせたがや未来の平和館は、川崎市と世田谷区の包括協定に基づき、2016(平成28)年に、平和を考える施設としての連携を始めました。本年は両館の連携10周年にあたります。



講師 ファン・ユーシャン
(せたがや未来の平和館 専門員)